経営にあたって

１　学校概要

本校は、平成 24 年４月に雄物川中学校、大森中学校、大雄中学校の３校が統合して開校した。秋田県内陸南部の横手市西部・大雄地区に位置し、南から北へ雄大な一級河川雄物川が流れ、西側に壮大な鳥海山を望むことができる。校舎は、雄物川、大森、大雄の３地区それぞれの中心街から離れた位置にあり、周辺はのどかな田園地帯である。

令和５年２月末現在、雄物川地区の人口は、約３千世帯で８千百人、大森地区は約２千百世帯で５千３百人、大雄地区は約千５百世帯で４千３百人で、学区の人口は、約６千６百世帯で１万７千７百人である。

各地区から中学校がなくなったことに加え､年を追うごとに地域の生徒数も減少していることから、地域の学校に寄せる期待は大きく、かつ協力的である。令和４年度よりコミュニティ・スクールが導入され、いっそう地域・保護者の連携がなされ、地域とともにある学校づくりを進めている。

開校から４年目で校訓「明峰清冽」が制定され現在開校 12 年目を迎えた。

生徒３４６名、職員数４６名（令和５年５月１日現在）

２　校　　訓　　明峰清冽（めいほうせいれつ）

「明峰」は、「碧空（へきくう）」の彼方を目指し凜として屹立する峰々である。移ろいやすい世にあっても、明智を抱き不易なる学びの道を求める姿を象徴している。「清冽」は、豊穣の海に向かって絶えず流れ続けるひとすじの河である。それは強く清らかで、その進むところに潤いと恵みをもたらす。心豊かでたくましく、現状に甘んじることなく大海原に向かう河のごとく、強く清らかな生徒に育ってほしいという願いが込められている。　（平成 27 年 11 月 24 日制定）

３　経営の基調

今の子どもたちが成人し社会で活躍する頃は、人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化、多様化、地球環境問題など変動性や不確実性、複雑性の時代となり、先行き不透明で将来の予測が困難な未来となっている。一方で IoT や AI で人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、必要な情報が必要な時に提供される超スマート社会（Society5.0）の仕組みづくりも進められている。さらには、新たな感染症の世界的流行は、社会や生活等を一変させる事態となり、成長期の子どもたちに多大な影響を及ぼしている。このような時代を担う子どもたちには、様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら価値の創造に挑み、よりよい社会を形成していく力を身に付け、未来を創っていくことが求められている。

令和３年度から実施となった学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成することを目指して、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくカリキュラム・マネジメントに努めること。そして家庭・地域の教育力を生かし、関係機関と連携を図る「地域とともにある学校」に転換していくことが求められている。さらには、時期教育振興基本計画（R5.3 月　中央教育審議会答申）のコンセプトとして「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」が掲げれらている。

これらのことから「一人一人の生徒が自分のよさや可能性を認識し、他者を価値ある存在として尊重し、協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることできるようにすること」を経営の基調としたい。換言すると、『個性を尊重し合いながら、多様な文化や様々な価値観を受け入れ、互いに支え合う社会の形成を目的に、目指す生徒の姿を明らかにし、育むべき「生きる力」を資質・能力として具体化し、一人一人に確実に身に付けさせる』ということである。

本校においては、これまで小学校で培ってきた資質・能力を基礎とし、義務教育段階で身に付けるべき基盤となる資質・能力を「自己理解力」と「他者理解力」と設定し、「生きる力」を支える社会的自立の柱に据える。その育成の手立てとして「MHR カリキュラム」をすべての教育活動において推進する。「自己理解力」は得手不得手、性格等、自分の特徴を客観的に見取る力であるが、①自己理解　②自己計画　③自己学習の３つがスパイラルアップしていく総体と捉える。

次に、生徒一人一人が持続可能な社会の担い手として、質的な豊かさを伴った個の成長と新たな価値の創造につながるよう「ESD：Education for Sustainable Development　持続可能な開発のための教育」（以下 ESD）の視点を取り入れ、新しい時代・社会に必要な資質・能力を育成したいと考える。

学ぶことと社会とのつながりを意識した教育活動を通してよりよい社会を創るという理念を、学校と社会とが共有し「社会に開かれた教育」の実現を目指す。これまでの教育活動を ESD の視点で捉え直し、「持続可能な社会の構築」という共通の目的で教科横断的な学びをつくり、それぞれの学びがつながり、いっそう本校教育の充実・発展と活性化が期待できる。

ESD は、社会における様々な問題を、自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会の実現を目指す学習・教育活動である。ESD の目指すことは持続可能な社会づくりを構成する「６つの視点」を軸に、教職員・生徒が社会づくりに関わる課題を見いだし、その課題解決に必要な「７つの能力・態度」を

育成することである。（2012 国立教育政策研究所）ESD は学習指導要領全体において基盤となる理念であり、総則に「持続可能な社会の創り手」が掲げられ、各教科にも関連する内容が盛り込まれている。昨年度は、各教科等で SDGs と関連させた単元配列表「ESD カリキュラム」を作成した。それをもとに、教科横断的な学習を展開することにより、各教科等の学習が生徒の内面でつながり、生徒自身が学びの価値を感じ、より主体的に学習に取り組むことが期待できる。

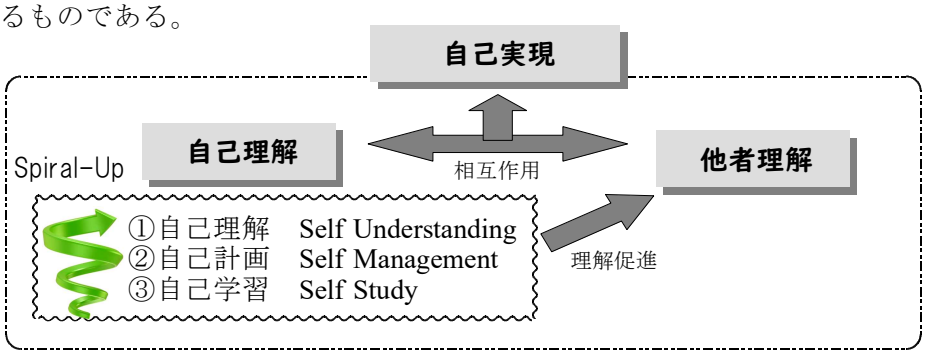
今年度は、ESD の視点で育成したい「６つの視点と７つの能力・態度」を、学習指導要領にまとめられた三つの資質・能力との観点から整理し、どの資質・能力を育成するのかを明確にした学習プログラムや授業づくりに取り組む。特に７つの能力・態度を身に付けることを「確かな学力」ととらえ、持続可能な社会を創り、たくましく未来を切り拓く生徒の育成につながると考える。

「確かな学び」とは知・徳・体で構成される「生きる力」（６つの視点と７つの能力・態度）に、それを支える「自・他の理解力」を加えた学びであると解釈し、カリキュラムマネジメントに機能させ、すべての教育活動を通してその育成を目指すものである。

結果、生徒一人一人が自己の特徴を認識し、よさを伸ばし不得手を補う。関わり合う他者のよさを理解し、価値ある存在として尊重し不得手に寄り添う。そして、互いの力を生かし合い協働しながら社会的変化を乗り越える、新たな価値を創造するなど、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、夢や志をもって臨機応変に対応し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となることができると考える。

このことは、全市一体となって目指す、学習・生活場面において自分の問いとして捉え主体的に問題解決に挑戦する子ども、試行錯誤しながら自分の力で習得した解から新しい価値を見いだすことができる子ども、「自ら学ぶ子ども」の育成に通ずるものであり、さらには校訓「明峰清冽」に込められた願いと重なるものである。

【自他理解力】



【ESD によって育成する資質・能力】
「6つの視点」を軸として

持続可能な社会作りの構成概念
Ⅰ　多様性（いろいろある）
Ⅱ　相互性（関わり合う）
Ⅲ　有限性（限りがある）
Ⅳ　公平性（一人一人大切に）
Ⅴ　連携性（力を合わせて）
Ⅵ　責任性（責任をもつ）

※「持続可能な開発のための教育（ESD）推進の手引き（R3.5月改訂）
「7つの能力・態度」を育成する

学習指導で重視する能力・態度
相互作用
集団交流
自律活動
①〔批判〕批判的に考える力
②〔未来〕未来像を予測して計画を立てる力
③〔多面〕多面的・総合的に考える力
④〔伝達〕コミュニケーション能力
⑤〔協力〕他者と協力する態度
⑥〔関連〕つながりを尊重する態度
⑦〔参加〕進んで参加する態度

※「７つの能力・態度」は本校生徒の実態に応じてアレンジして設定する

【学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱と ESD との関係性】

	生きて働く知識・技能	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
学習・活動プログラム	6つの構成概念	4つの能力	3つの態度

４　学校教育目標　　志をもち、自ら磨き、未来を切り拓く生徒の育成
～持続可能な社会の創り手を目指して自己理解力と他者理解力を育む～

生徒一人一人が夢や志をもち、その実現に向けて自分を磨き、他者と協働して未来を切り拓く、そして、たくましく自立して自分らしさを発揮し、よりよい社会と人生を創っていく生徒を育てたいと考え学校教育目標を設定した。

これまでも対話や協働的な学び・活動を通して自己理解力と他者理解力を全教育活動で育み、「他者からの情報受信・他者に向けての情報発信・自分の考えや生き方の再構築」を図りながら、自らを磨き未来を切り拓く生徒の育成に取り組み、成果をあげてきた。社会の変化に積極的に向き合い、一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、情報を判断したり再構成したりすることにより新たな価値につなげていくことは、これからの時代に一層求められている。

そこで、これまでの成果を踏まえ、「持続可能な社会の創り手」を副題とし、ESD の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメントを進めていきたい。ESD の視点に基づき、現代社会の問題や持続可能な地域づくりを自らの問題として主体的に捉え、将来にわたり豊かな生活を確保できるよう身近なところからの取り組みを通して、生徒一人一人に問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらすことが期待できる。さらには、コミュニティ・スクール２年目となり、コミュニティ・スクールカリキュラムの推進により、地域や保護者の教育力を巻き込み、本校教育の活性化につながるものと考える。

（１）目指す学校像　　**「地域とともにあり、魅力あふれる学校」**
- ○子どもたちと教師が信頼で結ばれ、安全に安心して生活できる学校
- ○子どもたちが保護者や地域、教師と共に生き生きと活動する学校
- ○子どもたちが他者と関わり合いながら学ぶ喜びや楽しさを味わう学校

（２）目指す生徒像　　**「夢の実現と社会参画に向けて、一歩前、一段上を目指す生徒」**
- ○自ら課題や問いを見出し、粘り強く追求・解決しようとする生徒・・「志をもち」　【知】かしこさ
- ○自他の理解を深め、協働してよりよく成長しようとする生徒・・・・「自ら磨き」　【徳】しなやかさ
- ○社会に目を向け、夢の実現に向かってやり遂げようとする生徒・・・「未来を切り拓く」　【体】たくましさ

【目指す生徒の姿】　　※アイコンは本校で設定した身に付けさせたい「７つの能力・態度」

	知：志をもち　【かしこさ】	徳：自ら磨く【しなやかさ】	体：未来を切り拓く【たくましさ】
知識・技能　**6つの構成概念**	□学んだことをつなげて、生きて働く知識・技能 □ ICT を活用し、必要な情報や資料を取捨選択したり、精査・吟味したりする情報整理・分析・活用力	□相手の人格を尊重し寄り添うやさしさとしなやかさ □自他のよさを認め、よさを伸ばしたり、短所を補完しあったりしながら取り組む協働性	□健康的で自律した生活習慣と自他の命を守る危機回避能力 □困難なことにもへこたれない気力と体力、たくましさ
思・判・表　**4つの能力**	□未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力と行動力	□自分の考えを他者と比較・検討し、新たな気付きを得たり、考えを更新したり、創ったりする開かれた感性	□目的意識をもち、自ら計画を立て、実践し、振り返る主体的・自治的実践力
学び・人間性　**3つの態度**	□自ら問いを発信し、粘り強く追求する主体性 □学ぶ楽しさや喜びを実感し、志をもち、よりよい自分を求め学び続ける意志と学びを生かす人間性 Self-Study	□他者の思いや考えを受容し、すすんで人のために尽くそうとする態度 □互いのよさを発揮しながら協働して問題の解決に向けて取り組もうとする態度 Self-Understanding	□社会の担い手として社会に関心をもち、夢を描きながら、「今」を大事にして物事に取り組み、自己のキャリアを形成していく態度 □「確かな学力」を身に付け、世界でも活躍できるグローバルな柔軟性 Self-Manegement

自己理解力・他者理解力・MHR

（３）目指す教師像　**子どもと共に学校の歴史を創る一人であることを自覚できる教師**

○そろえる　Keep　　子どもの確かな成長を目指し、協調・共鳴して実践する教師

○かかわる　Relation　子どもの思いや願いに寄り添いながら緩急剛柔に関わり、信頼を築く教師

○つなぐ　Link　　小中高等学校や家庭・地域・関係機関と情報連携を図り、協働・支援に努める教師

５　経営の実際

チームスローガン「一員ではない明峰中そのもの」

合い言葉
「一歩前へ　一段上へ」

経営の基調に沿い、義務教育段階の終わりまでに身に付ける資質・能力である「自己理解力」と「他者理解力」を土台とし、ESDの視点による「7つの能力・態度」の獲得を「確かな学力」ととらえる。授業改善の視点として、また、「**MHRカリキュラム**」、「**ESDカリキュラム**」、「**コミュニティ・スクールカリキュラム**」**による教科横断的な学習**を展開し、それらを**貫くもの**として全教育活動で「**７つの能力・態度**」**の育成**を目指す。

（１）　本校生徒の実態を踏まえ、身に付けさせたい「**７つの能力・態度**」を次のように設定する。
①「**批判・建設**」（批判的・建設的に考える力）　②「**予測・計画**」（物事の予測や計画をする力）
③「**多面・総合**」（多面的・総合的に考える力）　④「**表現・伝達**」（考えを表現・伝達する力）
❺「**協働**」（他者と協力する態度）　❻「**関連**」（つながりを尊重する態度）　❼「**参加**」（進んで参加する態度）
「７つの能力・態度」は、昨年度まで本校で育てたい５つの力「つなげる力・創る力・発揮する力・自己理解力・他者理解力」と整合性がとれており、漠然としていた資質・能力をより具現化したものとしてイメージしやすく、生徒・教師共に意識化され授業改善につながる。

（２）　学習面では、**明峰メソッドCTR**（Catch&Create・Try&Think Together・Reflection&Retry）に沿って関わりの質を高めた学びを進めるとともに、個々の考えをもって対話的に思考を深める「**灯火タイム**」や、できたこと、自他への気付きに視点を当てた「**振り返りと思考再構築**」を大切にし、自己理解と他者理解の力を高める。さらに、学習活動でめざす「７つの能力・態度」を拠り所とした授業づくりを通して「**自ら学びを創る子ども**」の育成を目指す。

（３）　学校生活の中では、「**一員ではない、一人一人が明峰中そのもの**」を意識させ、「**一歩前一段上**」を合い言葉に、機会を捉えて挑戦し、よりよい自分、学級、学校へ**創造・想像する**態度を身に付けさせるとともに、自己の成長や変容にも目を向けさせたい。

（４）　道徳の時間では、「**相互理解、寛容**」を重点項目とするとともに、ねらいとする道徳的価値を生徒自身が MHR との関わりで自分の課題として受け止め、「**考え、議論する**」授業を目指す。さらには他者との関わりの中で今の自分を理解すること、他者を理解すること、今後の生き方につなげることを意識させたい。

（５）　特別活動では、MHR との連携をより具体化した活動や**バディー活動（異学年交流）**を通して、自分を理解し、他者を思いやり、学級・学校への帰属意識と愛校心を育てたい。

（６）　他者理解の「他者」は地域や自然環境も含まれるととらえる。特に「総合的な学習の時間」や「横手を学ぶ郷土学」、「コミュニティ・スクール活動」を通して、地域とふれあい、地域を理解し、ふるさと横手を愛する気持ちを育む。さらには「７つの能力・態度」の視点で総合的な学習の時間のねらいや活動内容、計画を見直し、コミュニティ・スクールを活用した地域・関係機関との連携等をいっそう進める。持続可能な社会の形成のための価値観を醸成し、意欲を高めるとともに、自分の問題として主体的に解決しようとする態度や実践力を育てたい。

（７）　特別支援教育では、特別支援部主任（コーディネーター）を中心に個に応じた支援体制を工夫する。医療や福祉、適応教室等の関係機関と連携した組織的支援と個別の支援計画・指導計画に基づいた、人との関わり合いの中で成長・自立につながる教育課程編成に努める。

（８）　部活動では、技術・技能の向上はもとより、部員や指導者等、多くの他者との関わり合いを通して礼儀、上下関係、協働すること、粘り強く挑戦すること、感謝することを学ばせる。さらには達成した喜びや成就感、自己有用感など自己の頑張りや変容に目を向けさせたい。

６　本年度の重点

（１）**支持的風土を大切にした学校づくり**　　**支える**

①他者と対話しながら協働し、体験を通して感性を豊かにする活動の充実
・ＭＨＲカリキュラムを核とした認め合い、高め合う「一歩前・一段上」を目指す集団活動
・「**明峰プライド宣言**」に基づき他者を気遣うことばや思いやる行動等の励行と振り返りの重視
②自己理解・他者理解を深め、自己有用感を感得させ、自尊感情を醸成する生徒指導と道徳、特

別活動の充実（ＭＨＲ活動や表現・伝達活動の充実、**バディーシステム**の活用・拡充）

③心の居場所と活躍の場がある学校づくり・・・**「心理的安全性の確保」**

・互いを尊重する学びの基礎となる学級経営の充実（共感的人間関係、支持的風土の醸成）

・教育相談やアンケート、日誌・記録、家庭訪問等を通した情報共有と生徒理解

・いじめ基本方針に沿った共通理解に基づく校内体制と細やかな支援（予防的生徒指導、道徳の時間の充実）

・不登校の早期発見と早期解消を図る保護者や関係機関と連携したチームで動く対応・支援（月２回の**ＭＨＲミーティング**を開催し短・長期的 PDCA サイクルによる支援、ＳＣ活用と適応教室等の関係機関との連携、コンサルテーションによる共有）

④生徒一人一人の自立と確かな成長につながる特別支援教育の充実

・特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の工夫と支援の充実

・個別の支援計画・指導計画に基づいた、外部機関と連携した組織的支援の充実（月１回の**特支ミーティング**を開催し短・長期的 PDCA サイクルによる支援、支援員活用等の共通理解と個に応じた機を捉えた適切な支援）

（２）確かな学びを獲得する授業づくり　**伸ばす**

①**「明峰メソッドCTR」**の実践による主体的・対話的で深い学びの実現

・**子どもの「問い」を生かした課題**づくり、対話・議論等、関わりの質を高める**「灯火タイム」**、自他への気付きを大切にした振り返りと再思考

・学習活動でめざす「７つの能力・態度」の育成と表現・伝達（output）活動・場の設定

・自らの学びの状況を理解し、自分で課題を設定し、計画・実践する自ら学ぶ力を育てる。

②**「見方・考え方」を働かせた「深い学び」**育む基盤となる**言語活動の充実**

・自分の考えを伝える・相手の考えを汲み取り話す**「ことばの力」の育成**

③ ICT 活用による情報活用能力の育成と授業改善

・情報活用能力の育成のための年間計画の見直し

・タブレット端末を用いた個別最適な学びと、生徒自らが学びを調整し多様な考え・豊かな感性の交流等の主体的・協働的な学びの一体的な充実

④読書活動の充実、ＮＩＥの推進、学習環境の充実によることばの力の育成

・朝読書、LRT、ビブリオバトルの設定、**年間 35 冊読書**、NIE デイ、校内学習環境の整備

（３）持続可能な社会を創造する資質・能力の育成　**活かす**

① SDGs への意識の高揚と ESD の視点に立った学習活動の推進

・**ESD カリキュラム**をもとに、**「６つの構成概念と７つの能力・態度」**の視点を基盤として人格の発達や人間性を育む

・他者や社会、自然環境との関係性を認識し「関わり」「つながり」を尊重できる人を育てる

・横手市や学校区の状況と持続可能な社会を捉えながら、総合的な学習の時間を核とした教育実践と共に、教科学習とのつながりを明確にした**教科横断的な学び**の構築

・学んだことと関連付けながら活用能力を働かせる表現・伝達の場の設定

・ふるさと横手を愛する心を育む「横手を学ぶ郷土学」の取組（テキスト「よこてだいすき」＊デジタル化による全面改訂活用による授業実践と実践例の蓄積）

②明峰中学校区小中学校の行動連携と情報連携の推進

・**「明峰プライド宣言」**を拠り所とした小中合同あいさつ運動、学習支援ボランティア、ＭＨＲ集会、情報モラル教育（アウトメディア推進）、児童・生徒学習成果物等の巡回展示

③地域に開かれ、家庭・地域とともにある学校づくり

・学校運営協議会の方針と推進体制の検討及び**コミュニティ・スクールカリキュラム**の見直し

・地区交流センターや公民館、事業所や企業・活動団体との連携・協働体制の推進

・地域人材活用、職場訪問、ふるさと・キャリア教育の充実

・地域の方々に学校を身近に感じていただくよう**「楽校へ行こう」「Meiho　Fes」**等の施策

※　自己理解力：得手不得手、性格等、自分の特徴を客観的に見取る力
　　①自己理解力　②自己計画力　③自己学習力のスパイラルアップによる総体

※　他者理解力：関わる相手の人格を尊重し、よさを理解し、不得手に寄り添う力
　　（広義には、地域や諸団体、自然や動植物も他者と捉える）

※　確かな学び：「生きる力」（６つの視点と７つの能力・態度）と「自他への理解力」を獲得する学び

※　ＭＨＲ　：Meiho　Heart-warming　Relationship　の略　心が温かくなる関わり合いおよび活動
　　３本柱　～　人との関わり、情報モラル、生活習慣

※　ﾊﾞﾃﾞｨｰｼｽﾃﾑ：Buddy　System　相互補助、互いを生かし新たな創造をする協働・協力的な実践
　　職員も生徒も複数が有機的に関係し合い全体としてまとまった機能を発揮する。

※　ＬＲＴ　：ﾛﾝｸﾞﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞﾀｲﾑ　25 分間の読書時間

※　ＥＳＤ　：Education　for Sustainable　Development　持続可能な開発のための教育（ユネスコ）

※　ＳＤＧｓ　：Sustainable　Development Goals 持続可能な開発目標

MEIHO-ESD

目標４　質の高い教育をすべての人に

多様な文化、習慣、考え方を尊重し、
共に創り、共に生きる明峰生

環　境	経　済	人　権	多文化・国際理解
目標２ 飢餓をゼロにする	目標８　経済成長と人間らしい仕事	目標１　貧困をなくす	目標10　人や国家の平等
目標６ 安全な上下水の保障		目標３　健康と福祉	
目標７ エネルギーをみんなにクリーンに	目標９　産業と技術革新の基礎づくり		目標17　世界の協力とパードナーシップ
目標11 安全で災害に強いまちづくり		目標５　ジェンダー平等の実現	
目標13 気候変動対策	目標12　持続可能な生産と消費		
目標14 海の豊かさ		目標16　平和で公正な社会と行政	
目標15 陸の豊かさ			